

エコアクション21 環境経営レポート 令和3年度



活動期間：令和3年5月1日～令和4年4月30日



令和4年10月20日作成
千葉美装株式会社

環境方針

千葉美装株式会社は、限りある資源の有効活用と地球温暖化対策に取り組むことが経営の最重要課題であると考えています。それらの構築に重要な役割を担っている企業であることを認識し、課題とチャンスを踏まえて、一般廃棄物、産業廃棄物の収集・運搬業や中間処分業を通して廃棄物の再生使用と資源化を促進すると共に産業廃棄物の最終処分量の削減を図ることによって、経営の継続的改善と環境保全に努め、循環型社会の形成に貢献します。

1. 環境循環型社会の実現に貢献します。

再資源化の推進（質・量・品質の向上）
廃棄物の分析・適正処理の推進
環境に配慮した技術・製品の導入
グリーン購入の推進

2. 低炭素社会の実現に貢献します。

二酸化炭素排出の低減
水使用・一般廃棄物排出の低減

3. 地域や社会に根差した環境活動を推進します。

地域住民に配慮した事業活動

4. 環境活動の推進体制を充実します。

環境法規制等の遵守
環境データの管理・報告体制の強化

この環境方針は全従業員に周知し、また公表します。

制定日：平成30年6月15日

改定日：令和元年5月1日

千葉美装株式会社

代表取締役 白幡 進

1.組織の概要

(1)名称及び代表者名	名 称	千葉美装株式会社		
	代表者	代表取締役 白幡 進		
(2)設立年月日	昭和57年11月17日			
(3)資本金	1,000万円			
(4)売上高	約75,000万円(令和3年度)			
(5)所在地	本社	7名	千葉県南房総市荒川1379番地1	
	エコRCセンター	17名	千葉県南房総市荒川1379番地1	
	エコウッド	5名	千葉県安房郡鋸南町奥山662-1	
(6)事業内容	産業廃棄物収集運搬業 産業廃棄物中間処分業			
	一般廃棄物収集運搬業 一般廃棄物中間処分業			
	再生砕石及び木質チップ販売			

(7)事業規模	収集運搬量	22,172トン	
	中間処理量	103,760トン	※産廃84,887t 一廃18,873t
	再資源化量	76,890トン	
	最終処分量	4,876トン	

(8)環境管理責任者及び担当者連絡先	
責任者兼担当者	営業部長 酒向 勝彦
連絡先	TEL0470-58-0161 FAX0470-58-0625
E-mail	t-bisou@eos.ocn.ne.jp

(9)会社の沿革

当社は昭和57年11月千葉美装有限会社として設立され、平成6年、産業廃棄物収集運搬業許可を取得。その後、事業拡張の為、平成12年産業廃棄物処分業の許可を取得する一方、鋸南町、南房総市、館山市の一般廃棄物収集運搬業及び処分業の許可を取得し、地域に根差した経営をまいりました。更なる、業務の拡大をすべく、平成18年8月に株式会社へ称号変更、産業廃棄物処理を主力に、再生砕石とチップの販売も手掛け、平成30年10月エコRCセンター事務所を増床。令和元年5月本社をエコRCセンター内へ移転、現在に至る

2.登録申請の範囲

(1)対象範囲 : 本社・エコRCセンター・エコウッド

(2)事業範囲 : 産業廃棄物収集運搬業及び中間処分業、一般廃棄物収集運搬業及び中間処分業
再生砕石及び木質チップ販売

本社・エコRCセンター



中間処理・再資源化一貫処理システム

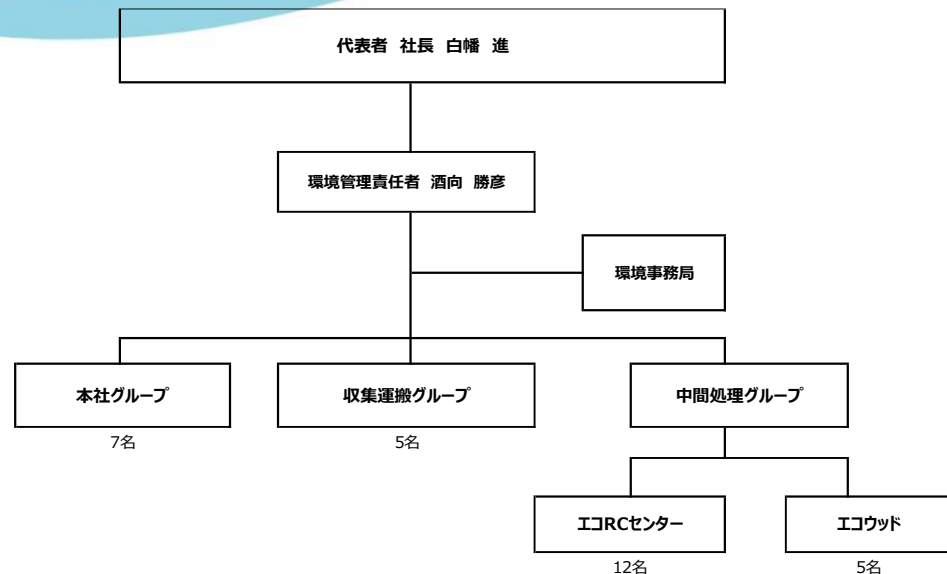


エコウッド



3.エコアクション21推進組織

(1)組織図



(2)責任と権限

役割・責任・権限	
代表者（社長）	・経営における課題とチャンス の明確化 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・EA21の実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの取りまとめ及び確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施
本社グループ	・本社業務における事務的管理及び実績管理 ・電力、廃棄物量削減管理 ・本社発着収集運搬業務及び清掃業務指示
収集運搬グループ	・収集運搬業務に関する現場指揮及び実績管理 ・配車指示、収集運搬作業及びEA21活動現場現場責任者 ・省燃費運転推進管理
中間処理グループ	・中間処理業務に関する現場指揮及び実績管理 ・各処分場の事務、作業管理、指導及びEA21活動現場現場責任者 ・省燃費、省電力管理
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4.許可の内容

産業廃棄物処分量の許可内容

発行者	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	事業範囲	廃棄物の種類						
				中間処理	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
千葉県	第01220017410号	令和2年9月7日	令和7年9月5日	エコRCセンター	○	○		○	○	○	○
				エコウッド			○				

(注)石綿含有産業廃棄物の積替保管
 廃プラスチック類 積替保管面積 2㎡ 最大保管量 2.2㎡
 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 積替保管面積 7㎡ 最大保管量 8㎡
 がれき類 積替保管面積 5㎡ 最大保管量 5.8㎡

産業廃棄物収集運搬業の許可内容

発行者	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	廃棄物の種類								
					燃え殻	汚泥	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類
千葉県	第01210017410号	令和1年5月23日	令和6年4月21日		○	○	○	○	○	○	○	○	○
				石綿含有産業廃棄物含む			○					○	○

(注)処理方法 破碎:廃プラ、紙くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁
 発酵:木くず
 圧縮:廃プラ、紙くず、繊維くず

一般廃棄物関係の許可内容

許可区域	種類	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	廃棄物の種類
鋸南地区	一般廃棄物収集運搬業	(3)第6号	令和3年6月14日	令和5年6月30日	一般廃棄物(ごみ)
館山市	一般廃棄物収集運搬業	第837号	令和4年4月1日	令和6年3月31日	一般廃棄物
南房総市	一般廃棄物収集運搬業	第27号-26	令和4年2月21日	令和6年3月31日	一般廃棄物(事業系一般廃棄物・一時多量家庭ごみ)
鋸南地区	一般廃棄物処分業	(4)第7号	令和4年5月23日	令和6年5月31日	木くず(一般廃棄物)

(注)一般廃棄物処分業は中間処分:処分方法:木くずは破碎及び発酵

一般貨物自動車運送事業の許可内容

許可者	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	種類
関東運輸局	関自貨第1834号	平成18年12月21日	定めなし	一般貨物自動車運送事業

一般建設業の許可内容

許可者	種類	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	廃棄物の種類
千葉県	土木工事業	(般-3)第35289号	令和3年8月17日	令和8年8月4日	とび・土工工事業
千葉県	解体工事業	(般-3)第35289号	令和3年8月17日	令和8年8月4日	

5.施設等の状況

	本社・エコRCセンター	エコウッド
従業員数	24名	5名
敷地面積	5,025m ²	4,183m ²

車種	台数
4tパッカー車	1台
2tパッカー車	2台
2t平ボディ	1台
2tダンプ車	1台
10tダンプ車	5台
4tユニック車	1台
4tコンテナ車	2台



名称	台数
14m ³ コンテナ	1基
12m ³ コンテナ	2基
8m ³ コンテナ	52基
2m ³ コンテナ	11基

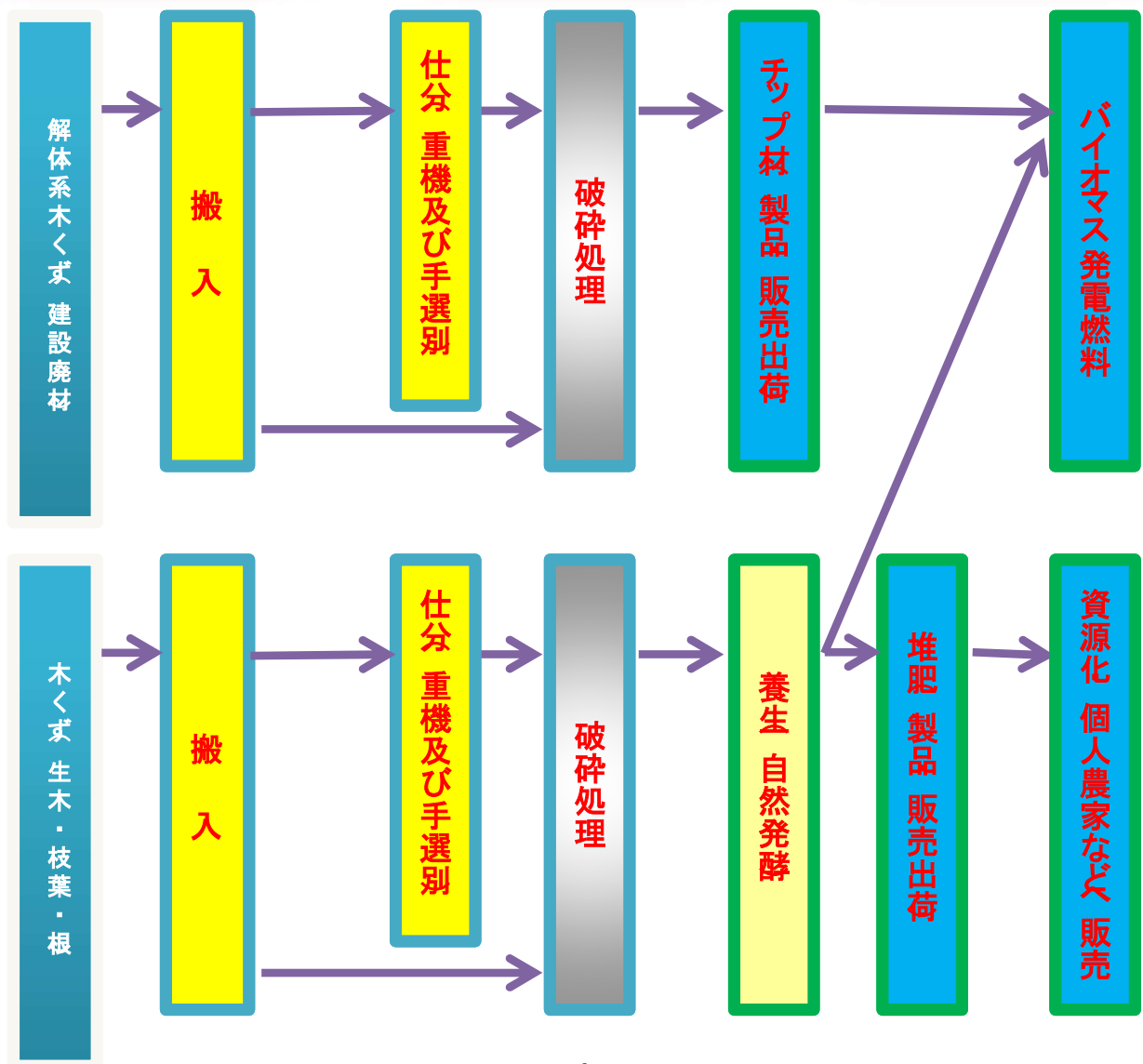


名称	台数	
	エコRCセンター	エコウッド
油圧ショベル	5台	3台
タイヤショベル	2台	1台
フォークリフト	1台	
破碎機	2台	1台
圧縮機	1台	

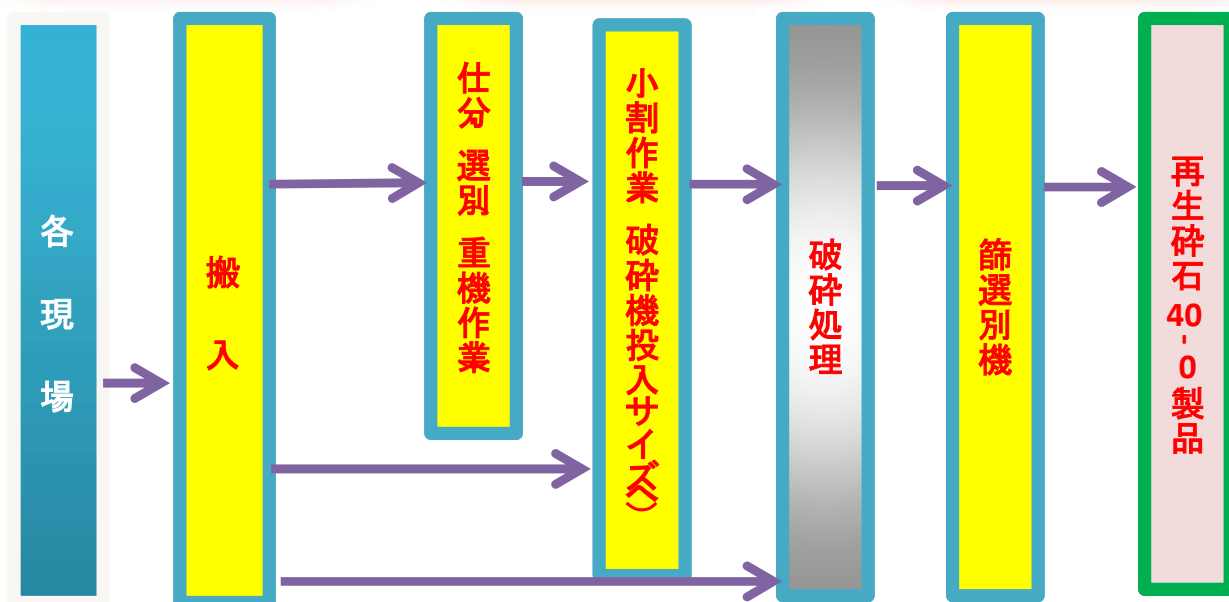
6.中間処理施設概要

設置場所	施設	処理能力	
エコRCセンター	破砕施設	がれき類	330t/日
	破砕施設	廃プラスチック類	17.81t/日
	破砕施設	紙くず	17.81t/日
	破砕施設	木くず	24.49t/日
	破砕施設	繊維くず	8.14t/日
	破砕施設	金属くず	16.77t/日
	破砕施設	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	21.20t/日
	破砕施設	がれき類	31.38t/日
	圧縮施設	廃プラスチック類	9.6t/日
	圧縮施設	紙くず	11.3t/日
	圧縮施設	繊維くず	11.3t/日
	圧縮施設	木くず	11.3t/日
エコウッド	破砕施設	木くず	180t/日
	発酵施設	木くず	1.6t/日

7.中間処理の概要(木質チップ再資源化フロー)



8.中間処理の概要(再生砕石RC40-0 再資源化フロー)



■ 当社の製品：生・解体チップと再生砕石RC40-0



9.経営環境目標

令和2年度～令和4年度

項目			単位	基準年 令和元年度 実績値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	令和4年度 目標値
電 気 使 用 量	エコRCセンター	原単位	kWh/処理量		原単位前年比 -1%	原単位前年比 -1%	原単位前年比 -1%
			1.03	1.02	1.01	1.00	
		使用量	kWh/年	53,758	66,354	66,360	66,360
	エコウッド	原単位	kWh/処理量		原単位前年比 -1%	原単位前年比 -1%	原単位前年比 -1%
			0.60	0.59	0.58	0.57	
		使用量	kWh/年	10,125	12,447	12,358	12,267
	全社	使用量	kWh/年	63,883	78,800	78,718	78,627
燃 料 使 用 量	軽油(エコRCセンター) (破碎・重機)	原単位	L/処理量		原単位前年比 -1%	原単位前年比 -1%	原単位前年比 -1%
			1.14	1.13	1.12	1.11	
		使用量	L/年	59,206	73,509	73,587	73,660
	軽油(エコウッド) (破碎・重機)	原単位	L/処理量		原単位前年比 -0.01	原単位前年比 -0.01	原単位前年比 -0.01
			3.82	3.81	3.80	3.79	
		使用量	L/年	64,464	80,377	80,967	81,562
	軽油 (収集運搬車)	原単位			原単位前年比 -1%	原単位前年比 -1%	原単位前年比 -1%
		L/収集量	1.35	1.34	1.33	1.32	
		使用量	L/年	78,865	79,320	79,515	79,707
	ガソリン	使用量	L/年		前年比-1%	前年比-1%	前年比-1%
		7,178	7,106	7,035	6,965		
※1 温室効果ガス排出量		原単位	kg-CO2/ (処理量+収集量)	4.55	4.57	4.54	4.51
		排出量	kg-CO2/年	580,127	664,364	666,430	668,477
水使用量(総排水量)		排水量	m ³ /年	チェックシートにて定性管理			
一般廃棄物削減		排出量	kg/年		前年比-1%	前年比-1%	前年比-1%
				530	525	519	514
処 理 量	エコRCセンター	中間処理量	t/年		前年比+25%	前年比+1%	前年比+1%
				52,042	65,053	65,703	66,360
	エコウッド	中間処理量	t/年		前年比+25%	前年比+1%	前年比+1%
				16,877	21,096	21,307	21,520
	処理場合計	中間処理量	t/年		前年比+25%	前年比+1%	前年比+1%
68,919				86,149	87,010	87,880	
収集運搬量 (RC運搬・チップ配達量含む)		収集運搬量	t/年		前年比+1%	前年比+1%	前年比+1%
				58,608	59,194	59,786	60,384
グリーン購入					チェックシートにて定性管理		

※1 電力の二酸化炭素排出量：0.455kg-CO₂/kWh(東京電力 平成30年度 調整後排出係数)を使用

※2 化学物質の使用はありません。

10.環境経営計画（主な活動内容）

令和2年度～令和4年度

区分	項目	環境活動の取組施策	責任者
二酸化炭素の削減	電気使用量の削減（工場）	① 均一な破砕機投入で、モーターの負荷を最小限にする。	中間処理 部門長
		② ブレーカーを日々OFFにする。	
		③ コンベアベルト接触部分の点検整備を行う。	
		④ 休憩室不在時、照明及びエアコン電源をOFFにする。	
	電気使用量の削減（事務室）	① 節電告知ラベルの貼付	事務部門長
		② エアコン省エネ設定運転	
		③ 不必要な照明消灯及び減灯	
		④ クールビズ・ウォームビズの展開	
		⑤ 節電製品・機器への切替	
		⑥ 高効率タイプ(LED) 照明器具への切替	
		⑦ ブラインド、カーテンの利用による熱出入りの調整	
	軽油・ガソリン使用量の削減	① 車輜エコドライブ（アイドリングストップ）	収集運搬 部門長
		② 搬送時の効率的なルートを選択、待機時間の短縮	
		③ 一般道は60km以下で走行	
		④ タコグラフ管理による安全・エコ運転徹底	
		⑤ 早めのシフトチェンジでエンジン回転数を1500回転以下にする。	
		⑥ 燃費管理データ収集	
		⑦ ドライブレコーダー導入による事故防止と省燃費運転	
		⑧ 作業に適した重機を使用し、過負荷の防止をする。	中間処理 部門長
		⑨ ラジエーター、フィルターのエア-ブローを細目に実施する。	
		⑩ 暖機運転、冷機運転以外のアイドリングストップ	
		⑪ 手選別作業時は重機のエンジンを停止する。	
		⑫ 切断機刃の摩耗確認と早めの交換実施。	
		⑬ 重機の各グリスアップを適宜行う。	
		⑭ エコモード作業を行う。	
		⑮ 重機の効率的な使用（アイドリングストップ）	
リサイクル	再生品の拡大	① 搬入廃棄物、出荷再生品の計測管理、搬出入管理	中間処理 部門長
		② 再生砕石やチップなど自社製品の品質向上。	
		③ 最終処分量削減のため、手選別作業の改善と分別作業の標準化を行う。	
		④ 優良産廃処理業者の早期認定	管理責任者
	一般廃棄物の削減	① 裏紙の積極使用 ② ビン・缶等の分別回収ボックスの適正配置 ③ 発生したごみは可能な限り圧縮等を行い減量化	事務部門長 管理責任者
グリーン購入他	グリーン購入他	① エコマーク文房具の購入拡大	事務部門長
		② 修理可能な製品の優先購入	各部門長
		③ 工場内の5Sの徹底、安全パトロール強化	管理責任者
		④ 事業所周辺の環境や生き物の保全活動	
		⑤ アルコールチェッカーによる飲酒検査	

11.令和2年度 活動実績と評価

11-1.環境目標

項目			単位	目標値	実績値	達成率	コメント
電気 使用 量	エコRCセンター (外野)	原単位	kWh/処理量	0.84	0.79	106%	大規模解体によりエコRCセンターの処理量が118%と大幅増加した。目標に対して電気使用量は増加し、処理量の増加もあったが、原単位は目標を達成した。それに対しエコウッドは目標値87%と処理量が大幅に減少し、目標に対し電気使用量は微増した。また原単位目標は処理量の減少はあったが、効果的な稼働ができず未達成であった。
		使用量	kWh/年	61,968	69,118	90%	
	エコウッド (奥山)	原単位	kWh/処理量	0.54	0.62	87%	
		使用量	kWh/年	10,113	10,198	99%	
	全社	使用量	kWh/年	72,081	79,316	91%	
燃料 使用 量	軽油(エコRCセンター) (破碎・重機)	原単位	L/処理量	1.03	0.95	108%	大規模解体によりエコRCセンターは大幅な処理量の増加で重機の稼働量が増し、軽油使用量は大幅な増加となったが、原単位目標は達成した。対して、エコウッドは処理量が大幅に減少したこともあり、使用量は減少したが原単位は悪化した。また、運搬車輛の軽油使用量は収集運搬量が減ったため減少したが、効果的な稼働ができず原単位は目標を達成することができなかった。
		使用量	L/年	75,985	82,715	92%	
	軽油(エコウッド) (破碎・重機)	原単位	L/処理量	4.17	4.62	90%	
		使用量	L/年	78,093	75,526	103%	
	軽油 (収集運搬車)	原単位	L/収集・販売量	0.91	0.93	98%	
		使用量	L/年	84,120	83,989	100%	
	ガソリン	使用量	L/年	7,106	5,134	138%	
原単位			kg-CO2	3.66	3.54	103%	大規模解体により処理量が増加したため、温室効果ガス排出量は未達成であったが、原単位は目標を達成した。
※1 温室効果ガス排出量			kg-CO2/年	677,650	687,271	99%	
水使用量(総排水量)			m ³ /年	99	142	70%	猛暑とがら搬入増加のため使用量は増加した。
一般廃棄物削減		排出量	kg/年	525	505	104%	目標達成今後も分別と再利用を心がけ、裏紙使用も徹底させたい。
処 理 量	エコRCセンター	中間処理量	t/年	73,771	87,401	118%	大規模解体により、エコRCセンターの処理量は増加したが、エコウッドは大幅に減少した。
	エコウッド	中間処理量	t/年	18,727	16,359	87%	
	処理場合計	中間処理量	t/年	92,499	103,760	112%	
収集運搬量 (RC運搬・チップ配達量含む)		収集運搬量	t/年	92,439	90,612	98%	ガラ運搬、RC運搬が増加したが、収集運搬量は目標を達成することができなかった。
グリーン購入			チェックシートにて定性管理を行った。				

※1 電力の二酸化炭素排出量は 0.500kg-CO2/kWh(東京電力2016年度実排出係数)を用いています。

11-2.環境活動計画

区分	項目	環境活動の取組施策	責任者	評価
二酸化炭素の削減	電気使用量の削減 (工場)	① 均一な破砕機投入で、モーターの負荷を最小限にする。	中間処理 部門長	○
		② プレーカーを日々OFFにする。		○
		③ コンベアベルト接触部分の点検整備を行う。		○
		④ 休憩室不在時、照明及びエアコン電源をOFFにする。		○
	電気使用量の削減 (事務室)	① 節電告知ラベルの貼付	事務部門長	○
		② エアコン省エネ設定運転		○
		③ 不必要な照明消灯及び減灯		○
		④ クールビズ・ウォームビズの展開		○
		⑤ 節電製品・機器への切替		○
		⑥ 高効率タイプ(LED) 照明器具への切替		○
		⑦ ブラインド、カーテンの利用による熱出入りの調整		○
	軽油・ガソリン 使用量の削減	① 車両エコドライブ (アイドリングストップ)	収集運搬 部門長	○
		② 搬送時の効率的なルートを選択、待機時間の短縮		○
		③ 一般道は60km以下で走行		△
		④ タコグラフ管理による安全・エコ運転徹底		○
		⑤ 早めのシフトチェンジでエンジン回転数を1500回転以下にする。		○
		⑥ 燃費管理データ収集		○
		⑦ ドライブレコーダー導入による事故防止と省燃費運転		○
		⑧ 作業に適した重機を使用し、過負荷の防止をする。	中間処理 部門長	○
		⑨ ラジエーター、フィルターのエア・ブローを細目に実施する。		○
		⑩ 暖機運転、冷機運転以外のアイドリングストップ		○
		⑪ 手選別作業時は重機のエンジンを停止する。		○
		⑫ 切断機刃の摩耗確認と早めの交換実施。		○
		⑬ 重機の各グリスアップを適宜行う。		○
		⑭ エコモード作業を行う。		○
		⑮ 重機の効率的な使用 (アイドリングストップ)		○
リサイクル	再生品の拡大	① 搬入廃棄物、出荷再生品の計測管理、搬出入管理	中間処理 部門長	○
		② 再生砕石やチップなど自社製品の品質向上。		○
		③ 最終処分量削減のため、手選別作業の改善と分別作業の標準化を行う。		○
		④ 優良産廃処理業者の早期認定	管理責任者	△
一般廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	① 裏紙の積極使用	事務部門長 管理責任者	○
		② ビン・缶等の分別回収ボックスの適正配置		○
		③ 発生したごみは可能な限り圧縮等を行い減量化		○
グリーン購入他	グリーン購入他	① エコマーク文房具の購入拡大	事務部門長	○
		② 修理可能な製品の優先購入	各部門長	○
		③ 工場内の5Sの徹底、安全パトロール強化	管理責任者	○
		④ 事業所周辺の環境や生き物の保全活動		○
		⑤ アルコールチェッカーによる飲酒検査		○

大規模解体のため、今期も搬入量が増加し、全社員一丸となり業務にあたりました。また昨年、産廃優良認定取得に向けて情報公開をしました。

12-1. 次年度の取り組み

令和4年度の環境経営目標見直し
令和4年度からは下記の中期環境経営目標に基づいて活動を進めます。

項目			単位	基準年 令和3年度 実績値	令4年度 当初目標値	令4年度 改定目標値
電 気 使 用 量	エコRCセンター	原単位	kWh/処理量			
				0.79	1.00	1.18
	使用量	kWh/年	69,118	66,360	62,640	
	エコウッド	原単位	kWh/処理量			
				0.62	0.57	0.87
	使用量	kWh/年	10,198	12,267	9,840	
	全社	使用量	kWh/年	79,316	78,627	72,480
燃 料 使 用 量	軽油(エコRCセンター) (破碎・重機)	原単位	L/処理量			
				0.95	1.11	1.30
	使用量	L/年	82,715	73,660	73,140	
	軽油(エコウッド) (破碎・重機)	原単位	L/処理量			
				4.62	3.79	4.61
	使用量	L/年	75,526	81,562	60,504	
	軽油 (収集運搬車)	原単位				
			L/収集量	0.93	1.32	0.68
	使用量	L/年	83,989	79,707	73,704	
	ガソリン	使用量	L/年			
			5,134	6,965	5,083	
※1 温室効果ガス排出量		原単位	kg-CO2/ (処理量+収集量)	3.54	4.51	3.99
		排出量	kg-CO2/年	687,271	668,477	585,756
水使用量(総排水量)		排水量	m³/年		チェックシートにて定性管理	前年比-1%
				143	142	140
一般廃棄物削減		排出量	kg/年			前年比-1%
				505	514	504
処 理 量	エコRCセンター	中間処理量	t/年			前年比-20%
				87,401	66,360	52,920
	エコウッド	中間処理量	t/年		前年比-30%	前年比-50%
				16,359	21,520	10,728
	処理場合計	中間処理量	t/年		前年比-30%	前年比-30%
103,760				87,880	63,648	
収集運搬量 (RC運搬・チップ配達量含む)		収集運搬量	t/年		前年比-30%	前年比+5%
				90,547	60,384	63,383
グリーン購入					チェックシートにて定性管理	

※1 電力の二酸化炭素排出量：令和元年度は 0.500kg-CO₂/kWh(東京電力平成28年度実排出係数)を使用

※2 化学物質の使用はありません。

令和2年度～令和4年度中期環境目標のポイント

- ①災害特需が終わり、新たに災害前基準に移行し、再度実績をとる基準年とする。
- ②電気、軽油、ガソリンは実績把握をし、新たな目標を作ることとする。
- ③水使用量および一般廃棄物量は2021年実績から1%削減することとした。
- ④グリーン購入はチェックシートにて定性評価とする。

12-2. 次年度の取り組み

[2]環境活動計画（令和2年度～令和4年度）

区分	項目	環境活動の取組施策	責任者
二酸化炭素の削減	電気使用量の削減（工場）	① 均一な破碎機投入で、モーターの負荷を最小限にする。	中間処理 部門長
		② ブレーカーを日々OFFにする。	
		③ コンベアベルト接触部分の点検整備を行う。	
		④ 休憩室不在時、照明及びエアコン電源をOFFにする。	
	電気使用量の削減（事務室）	① 節電告知ラベルの貼付	事務部門長
		② エアコン省エネ設定運転	
		③ 不必要な照明消灯及び減灯	
		④ クールビズ・ウォームビズの展開	
		⑤ 節電製品・機器への切替	
		⑥ 高効率タイプ(LED) 照明器具への切替	
		⑦ ブラインド、カーテンの利用による熱出入りの調整	
	軽油・ガソリン 使用量の削減	① 車輛エコドライブ（アイドリングストップ）	収集運搬 部門長
		② 搬送時の効率的なルートを選択、待機時間の短縮	
		③ 一般道は60km以下で走行	
		④ タコグラフ管理による安全・エコ運転徹底	
		⑤ 早めのシフトチェンジでエンジン回転数を1500回転以下にする。	
		⑥ 燃費管理データ収集	
		⑦ ドライブレコーダー導入による事故防止と省燃費運転	中間処理 部門長
		⑧ 作業に適した重機を使用し、過負荷の防止をする。	
		⑨ ラジエーター、フィルターのエア・ブローを細目を実施する。	
		⑩ 暖機運転、冷機運転以外のアイドリングストップ	
		⑪ 手選別作業時は重機のエンジンを停止する。	
		⑫ 切断機刃の摩耗確認と早めの交換実施。	
		⑬ 重機の各グリスアップを適宜行う。	
		⑭ エコモード作業を行う。	
		⑮ 重機の効率的な使用（アイドリングストップ）	
リサイクル	再生品の拡大	① 搬入廃棄物、出荷再生品の計測管理、搬出入管理	中間処理 部門長
		② 再生砕石やチップなど自社製品の品質向上。	
		③ 最終処分量削減のため、手選別作業の改善と分別作業の標準化を行う。	
		④ 優良産廃処理業者の早期認定	
	一般廃棄物の削減	① 裏紙の積極使用 ② ビン・缶等の分別回収ボックスの適正配置 ③ 発生したごみは可能な限り圧縮等を行い減量化	事務部門長 管理責任者
グリーン購入他	グリーン購入他	① エコマーク文房具の購入拡大	事務部門長
		② 修理可能な製品の優先購入	各部門長
		③ 工場内の5Sの徹底、安全パトロール強化	管理責任者
		④ 事業所周辺の環境や生き物の保全活動	
		⑤ アルコールチェッカーによる飲酒検査	

13 環境への取組の自己チェック結果

取組事項		令和3年度			
		評価項目	評価点	満点	達成率
1.廃棄物処理 事業活動	①受託、または受領した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	12	61	68	90%
	②産業廃棄物の処理などにおける環境配慮	14	81	84	96%
	1項平均	26	142	152	93%
1.事業活動 インプット	①省エネルギー	11	58	62	94%
	②省資源	8	44	46	96%
	③水の効率的利用	3	18	18	100%
	1項平均	22	120	126	95%
2.事業活動 アウトプット	①CO2抑制・大気汚染防止	3	15	18	83%
	②廃棄物等の排出抑制・リサイクル、適正処理	14	76	80	95%
	③排水処理	3	18	18	100%
	④その他生活環境に係る保全の取組など	2	4	8	50%
	2項平均	22	113	124	91%
3.製品サービス	①グリーン購入	4	16	18	89%
	②環境に配慮した物品購入	4	24	24	100%
	3項平均	8	40	42	95%
4.その他	①環境コミュニケーション及び社会貢献	4	24	24	100%
	4項平均	3	18	18	100%
総合達成状況		81	433	462	94%

※評価項目はチェック対象項目数

■取組結果のまとめ

1. 事業活動インプット：省エネに更に取り組む必要がある。達成率を100%にし、それを継続する必要がある。省資源についても同様。節水はもう一步の処にある。
2. 事業活動アウトプット：オフィスごみの排出抑制、リサイクルに常時心掛けたい。産業廃棄物等の適正処理についても排出事業者と連携し、3Rを推進したい。
3. 製品及びサービスにおける環境配慮：グリーン購入は実施出来ている。事業活動に於ける環境配慮は、エコドライブの励行等を自らの目標に掲げ、実行することで効果は更に上がると考える。再生砕石やチップ製品の商品品質の向上も取組の重要な要素にしたい。
4. その他：社員全員が社会貢献活動に積極的に参加することで、地元地域にアピールをする。

14.環境関連法規への違反、訴訟等の有無

■令和4年4月24日に於いて、環境関連法規等の違反、訴訟はありません。

■なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間なく、訴訟等もありません。

■当社に關係する環境関連法規は下記の通りです。

➢廃棄物処理法 ➢騒音規制法・振動規制法 ➢消防法 ➢自動車NOx・PM法 ➢オフロード法
➢道路運送車両法 ➢道路交通法 ➢労働安全衛生法 ➢貨物自動車運送事業法

15.社長による全体評価と見直し

(令和4年6月1日本社にて実施 社長及び環境管理責任者)

報告項目	管理責任者からの報告内容	評価
環境経営システム構築	エコアクション 21 は順調に活動を進めている。開始して凡そ 5 年経過したが、現在の推進体制、環境経営システムを変更する必要はないと判断します。	○
環境経営目標	台風災害の特需は終了したが、大規模解体でエコ RC センターの搬入量が増加したがエコウッドの搬入量は大幅に減少した。エコ RC センターは電気・軽油とも大幅に増加したが原単位は目標を達した。又、エコウッドは処理量減少の影響で電気使用量は微増、軽油使用量は減少となったが、原単位は悪化した。ガソリンは一昨年、営業車を増車したが、業務の都合で減車したため使用料、原単位共には改善した。	○
環境関連法規制	環境法規制登録一覧表に該当条文名と順守内容を明確にし、遵守体制を整備した。改正消防法の消火器耐用年数は特に入念にチェックしたが、順守に問題はなかった。他の法令の順守も問題なかった。	○
外部からの苦情・要望	環境に関わる苦情や指導等はありませんでした。	○
緊急事態の想定及び訓練	エコウッドにおいて処理後のチップが自然発火したことを想定して消火訓練を実施。その際、使用した消火器は使用期限内であったがハンドル部分の劣化が激しく噴射しなかった。そのことを踏まえ全員で全消火器の場所確認と点検をした。	○
是正及び予防処置の状況	環境目標の達成状況6ヶ月連続未達成で環境管理責任者が必要と認めた場合は是正処置発令としています。令和3年度是正処置はありませんでした。	○
社長からの指示	大規模解体の影響で搬入量の増加の中、無事故で終えたこと、又、一部未達成もありましたが電気、軽油や温室効果ガス排出量の原単位目標を達成したことは大いに評価します。相変わらず搬入量は増加傾向ですが、来年度からも全員一丸となって改定中期目標の達成に向けて取り組んで戴きたい。	

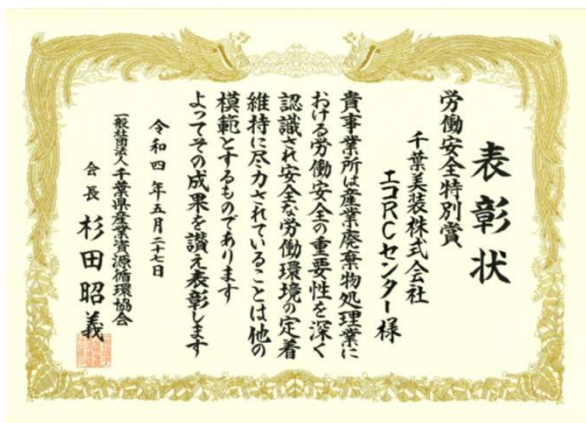
■変更の必要性の有無

①環境方針	変更なし	令和元年 5 月 1 日付の環境経営方針から変更はなし。
②環境目標	変更あり	改定中期環境経営計画(令和 4 年 5 月改定)に基づき取り組むこと。
③環境活動計画	変更なし	改定中期環境経営計画に基づき活動を継続すること。
④環境経営システム	変更なし	活動の見える化と全員参加の活動を推進すること。

16.地域貢献活動



17.ごみゼロ運動新聞掲載



18.ごみゼロ運動新聞掲載

19.ちばSDGsパートナー登録

